

長野県埋蔵文化財ニュース

No. 41

1995.3.31

(財)長野県埋蔵文化財センター

〒387 更埴市屋代字清水260-6
TEL (0262) 74-3891



巨礫にピット（50ヶ）をうがつ遺構

—木曽郡南木曽町太田垣外遺跡の調査—

木曽郡町村会 新谷和孝

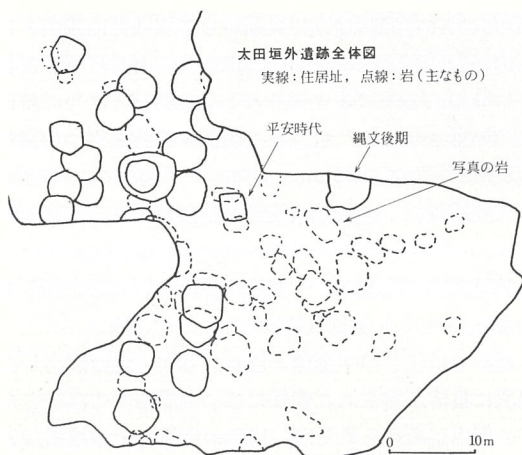
太田垣外遺跡は、岐阜県境に近い木曽郡南木曽町田立に所在する。遺跡は、北側の山裾から続く標高約400mの尾根上の平坦部にある。終戦直後の地主による水田の作り換えの際に発見され、故藤沢宗平氏らにより小規模な発掘が行われている。

今回の調査は、ほ場整備事業に先立って行われ縄文時代中期後半の住居址19軒などが検出された。

遺跡は木曽郡南部の基盤層である花崗岩が多量に含まれた二次体積ロームの上に営まれており、調査した部分でも直径1m以上の岩が数百個地表に露出していた。縄文時代中期の住居址はこの岩の間に作られており、その多くは壁や床に露出した岩を削ったり、岩に柱穴を掘ったりして作られていた。岩の多くは風化が進行していて移植ゴテなどで削ることも可能であるが、中には重機でも削るのが困難な固いところを割って住居址の壁などにしているところもある。

中期の集落からわずかに下がった部分では、後期の

掘立柱建物址が重複したと思われる柱穴群が検出されている。写真は中期住居群東方の後期住居址に接した長径4mもある花崗岩に50ヶ近い大小の穴（ピット）が掘られているものである。穴は直径20～60cm、深さ、



センターだより

平成6年度のまとめ—発掘調査の“やま”こえる

冬季オリンピック開催に伴う「新幹線」「高速道」関連事業でここ数年、膨大な事業量をこなしてきたセンターも、平成6年度の調査で一応の“やま場”を終了した感がある。以下、本年度の事業概要とその成果や課題を簡単に記すことにしたい。より詳細については「年報」によっていただきたい。

〔佐 久〕

本年度でほぼ発掘調査が終了し、3月事務所が閉鎖された。

上信越自動車道：継続調査の芝宮、郷土の2遺跡。芝宮は田切りを隔てた中原遺跡群と同時期の古墳時代後期～平安にわたる大集落の様相が明確となった。郷土遺跡は縄文中期後半を中心とするこれまた佐久地方有数の遺跡であることが判明した。

北陸新幹線：浅科村砂原遺跡は周堤の巡る竪穴住居と小区画の水田、畑が用水路、あぜ道、小川などとともに千曲川の洪水砂でうまくパックされた状態で検出され、平安時代農村がみごとによみがえった。同村中平、田中島遺跡では周辺初の古墳時代前期初頭の集落やその直後の方形周溝墓4基などが注目された。

昭和61年10月に開所以来8年6ヶ月、調査遺跡数は56ヶ所、総面積約48万㎡におよんだが、そのうち県境から佐久インターまでの23遺跡の報告書2冊が刊行された。残る整理作業等は上田調査事務所へ引継がれる。

〔上 田〕

上信越自動車道：大半が継続調査で東部町中田・真行寺の2遺跡が追加された。真行寺遺跡の大小二種の土坑群が火葬墓・土壙墓に対応しそうで興味深い。上田市大日ノ木遺跡は弥生後期から古墳前期の集落、宮平遺跡の完形円面硯が話題となった。坂城町東平古墳群は昨年2基に続き残りの1基を調査、径15mの円墳で盗掘されていたが葺石と山側に周溝をもつ墳丘の状況が明らかにされた。

北陸新幹線：国分寺周辺遺跡群は隣接する市道バイ

10～60cmで、石斧のような工具の痕跡が確認できるものもある。

通常では住むのが困難と思われるが、岩の露出した場所に集落が営まれた背景には、生活条件の良好さなどの理由が考えられるが、当時の生活や土木技術などを知る上で大変興味深い資料と言えよう。



西岡A遺跡様群出土状況

パスも含めて調査となった。信濃国分寺跡の一段下位の段丘で弥生後期～平安の掘立柱建物址・住居跡が約200軒弱検出されているという、狭長な調査区域としては密度の高い集落跡が把握され、国分寺瓦利用のカマド、和同開珎出土とともに、信濃国分寺周辺の様相が一段と解明されてきたといえよう。

〔長 野〕

更埴市から長野市北部三才遺跡までの11遺跡、それにオリンピック関連の小川村西光寺遺跡の計12遺跡、延調査面積54,030㎡となった。昨年からの継続調査であったが諸般の事情で当初計画に変更がよぎなくされ、文化課や上田、佐久両調査事務所からの応援をえ、1月末まで期間を延長し、ようやく終了させた。

上信越自動車道：更埴市屋代遺跡が何といっても特筆される。自然堤防に沿う溝や水利施設に廃棄された多量の木筒は、奈良時代を中心とし「郡符木筒」のみならず「国符木筒」など重要な内容を含む資料が今日も整理途上で検出されつづけており、豊富なその記載内容からみて日本古代史研究に大きく寄与するといっ

て過言でない成果をあげている。また、屋代遺跡群では昨年に引続き、地下7mから周堤をもつ住居址十数棟からなる縄文中期初頭の集落跡が発見され、低地帯における縄文遺跡のあり方再検討に格好の資料を提出した。

北陸新幹線：長野市内犀川以南では篠ノ井遺跡群の

遺物では後期の土坑より出土した、径5cmほどの琥珀製の垂飾などが注目される。

なお本遺跡は、調査中に地元より遺跡の保存の要望があり、町では工事の設計を変更して埋め戻しによる保存を行った。

弥生後期集落と円、方形周溝墓群が特筆される。墓域の延長は120m及び県内でも有数な例となった。一方犀川以上では長野市街地から北部一帯に断続的に小区域の調査が実施され、縄文中期・弥生～平安、更に中近世の遺構が延々と存在することが判明し、地形と遺跡の展開、推移の関係を解明する大きなデータが得られた。新幹線幅などで広範囲の調査が不可能だった点をカバーする成果をあげたといえよう。

〔中 野〕

中野市・上水内郡豊田村及び信濃町の15遺跡、調査延面積87,100㎡にわたって実施された。

上信越自動車道・国道バイパス：中野IC以北が対象地域となった。昨年度に引続きその中心は野尻湖周辺の遺跡群で、この大規模調査（H7年度も）によりとくに旧石器時代の重要な発見が相次いだといえる。

貫ノ木遺跡の多数の砥石、西岡Aの横長薄片を主体とするナイフ形石器群・裏の山の多数のブロック群の

全域調査などは今後の研究に重要な役割を果たすだろう。なお、5年度出土の日向林B遺跡の石斧3本の残留脂肪酸分析の結果、対象動物としてナウマンゾウ・ニホンシカがあげられた点は特記すべきであろう。

縄文時代では信濃町での早・前期の良好な資料がえられ、一方、平安時代の山棲み集落的な小規模遺跡の調査も数カ所で確認され忘れがたい成果であった。

〔整理作業〕5年度5冊の報告書を発刊したため、今年は1冊もなかったが、昭和63年以来の大遺跡群の整理作業も4事業所で着々と進展し、次年度以降順次刊行の計画が整えられている。

〔展示会等〕「赤い土器のクニ」「野尻湖周辺の先土器文化」両展（6頁）のほかの公開普及活動としては、中野事務所の風呂屋遺跡（豊田村農協）の報告会、上田事務所の下塩尻区・神科区両文化祭への遺物展示協力があり、恒例の現場説明会は各遺跡ごとに実施し、それぞれ多くの参加者があり好評であった。

平成7年度事業概要

理事会で承認された事業概要は以下の通りである。

1 組織体制関係

事務局が県立歴史館に移り、調査事務所は長野・上田・中野の3所体制となる。職員数76（行政12、教育64）とやや縮小となる。

2 調査研究事業関係

発掘調査は20遺跡、延面積68,770㎡で6年度に較べて遺跡数で22%、面積で16%と大幅に減少する。しかし、従来の北陸新幹線、上信越高速道関連以外建設省、長野市などのオリンピック関連事業や、県関係の市町村派遣なども変更される場合もある。それに対して「整理作業」は96遺跡分となり、センターの主要部分が報告書刊行へ移ることになる。

（発掘調査遺跡）（※印新規、他は継続）

高速道関係：郷土（小諸市）、真行寺・桜畑（東部町）、大日ノ木・宮平（上田市）、山崎古墳群（坂城町）、牛出（中野市）、※対面所（豊田村）、七ツ栗・日向林B・東裏・※大久保南・上の原・貫ノ木・西岡A・※星光山荘（信濃町）

新幹線関係：前田（佐久市）、篠ノ井・石川条里・浅川扇状地遺跡群（長野市）

国道18号野尻バイパス関係：貫ノ木（信濃町）

新幹線側道拡幅関係：浅川扇状地遺跡群（長野市）

〔整理作業遺跡と報告書刊行巻別予定〕

- ・ 長野自動車道 — 長野市内その3（石川条里）、同4（篠ノ井）。
- ・ 上信越自動車道 — 長野市内2～4（松原）、同5（北平塚他）、同9（榎田）、佐久市内3・小諸市内1（栗毛坂他）、同4・同2（芝宮他）、小諸市内3（三田原他）、東部町内（大星山他）、上田市・坂城町内（大日ノ木他）、更埴市内1（清水製鉄跡他）、同2・3（更埴条里他）、小布施町・中野市内1（飯田古屋敷他）、同2（清水古窯址他）、同3・豊田村（牛出他）、信濃町内（七ツ栗他）
- ・ 北陸新幹線 — 更埴市内（更埴条里他）、長野市南部（篠ノ井他）、同北部（浅川扇状地他）、軽井沢町～浅科村内（県他）、上田市内（国分寺周辺）。

3 予算関係

17億78百万余で前年当初比で52.6%と約半減する。以上のように、平成7年度は予算規模・事業内容からみても、全面的に縮小期にあたり、一つの画期といえよう。

文化財より

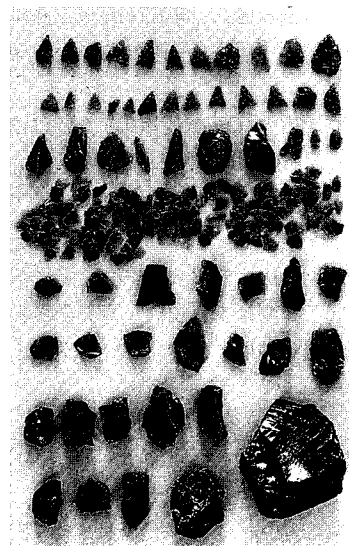
茅野市内北大塩地区遺跡詳細分布調査

調査の目的と地域の概要：県営は場整備事業が計画されている茅野市米沢北大塩地区の縄文時代遺跡について、遺跡の分布と性格等を把握するため、駒形遺跡を中心に平成6年6月から12月にかけて表面採集と試掘調査を実施した。

茅野市米沢北大塩地区は茅野市の北、霧ヶ峰山塊を北に負う袋状の地形をなし、南東に八ヶ岳の山並みを望む位置にある。この袋状の地形は、霧ヶ峰池のくろみ湿原に源を発する檜沢川、横河川などの河川が山麓から平坦部に出るあたりに形成した扇状地によって形作られている。これらの河川が刻む谷や尾根が霧ヶ峰台上への交通路となり、旧石器時代から縄文時代には黒耀石の搬出の主要ルートとして利用されたと考えられている。

表面採集及び試掘調査結果：茅野市米沢北大塩地区で表面採集調査を実施し、遺跡範囲の把握を行った。その結果、周知されている8遺跡の時期と範囲を確認したほか、新たに菖蒲沢遺跡、出ノ脇遺跡、買地遺跡の3遺跡を発見した。このうち、駒形遺跡では表面採集により800片余りの縄文土器片と約20kgの黒耀石が採集された。

表面採集調査に基づいて、駒形遺跡で20か所のトレンチを設定し試掘調査を実施した。その結果、縄文前期初頭住居址7軒、中期藤内期4軒、中期曾利Ⅱ期6軒、曾利Ⅱ～Ⅴ期4軒、時期不明6軒、後期堀ノ内期配石遺構、土坑多数等の遺構が確認されたほか、縄文時代の地形環境を知る資料を得ることができた。



この結果、駒形遺跡は台地上の平坦地の集落域とそれを取り巻く生活域（檜沢川沿いの低地、台地南下の湧水周辺）によって構成されていることが明らかとなり、台地上の集落は、縄文前期初頭に開始され、時期によって位置を変えながら後期まで継続していたこと



がわかった。

試掘に入る前の表面採集調査によって、駒形遺跡では20kgあまりの黒耀石が採集されたことは先に述べたが、試掘調査によって確かめられた住居址でも多量の黒耀石が出土した。中期曾利Ⅱ期の住居址では覆土から2,105gの黒耀石が出土し、原石・石核・剥片・碎片・両極石器・石器等の石器製作の各工程を示す黒耀石が含まれていることがわかった。これは、他の遺構にも共通しており、この遺跡が黒耀石の石器生産に深く関わっていたことが確かめられた。また、黒耀石製のポイントも出土し、旧石器時代に人びとの営みがあったことも確認できた。

まとめ：以上のように、駒形遺跡は縄文前期初頭から後期前半にかけて台地上の平坦部に営まれた集落遺跡で、おそらく100軒を越える規模の集落址になるものと考えられる。

駒形遺跡は北大塩地区に点在する遺跡群のなかで、縄文時代の拠点的な意味を持つ集落として営まれたばかりでなく、霧ヶ峰台上から平坦地への黒耀石搬出ルートの降り口にあたっており、表面採集や住居址内から出土した多量の黒耀石によって黒耀石製石器の製作及び交易に深く関わった遺跡であることが確認できた。

宅地化が遺跡地にまで及んできているとはいえ、縄文時代の集落とそれを取りまく生活空間をよく残しており、さらに黒耀石の交易や石器製作のあり方を解く鍵を握る極めて重要な遺跡といえる。

今回の調査は、茅野市教育委員会、長野県考古学会等の協力を受け、上に述べてきたような成果を上げることができた。記して感謝したい。

〔県内埋文施設紹介〕

さらしなの里・縄文の里

【施設】さらしなの里古代体験パーク・歴史資料館は、古くから姨捨伝説と月の歌枕の地として知られているさらしなの里、冠着山（姨捨山）の北麓にある。パークは、円光房遺跡で出土した縄文時代中期末葉の柄鏡形敷石住居をモデルに復元した6棟の復元住居、高床式倉庫、立石址等で構成された縄文時代中期のムラが復元されており、縄文時代へのタイムトリップが楽しめる。資料館、生態展示手法を用いものが肌で感じられるオープン展示の展示室と、随時『姨捨伝説』の切り絵映像が鑑賞できるメディアルーム、また、各種体験学習が楽しめる体験学習室がある。

【活動】当施設では、体験学習を運営方針の中心に据えている。一般者向けのインスタントな体験ができるミニミニ体験コーナーと、ちょっとマニアックな人向けの各種体験教室、さらに、町内小学校授業カリキュラムのなかのクラブ活動の時間を体験学習に充てている。ミニミニ体験コーナーには、文様創作・石器作り・土器作り・古代編物作りのコーナーが



あり、30分から1時間程の時間で作品が作られ、持ち帰ることができる。体験学習教室は、受講生を募集して行う教室であり、野山の草木から繊維を搾集、精製、編み方の学習等一貫した製作行程のなかで作品を作って体験する古代編物教室のように古代人の知恵や季節観等に触れられるような教室としている。この他、古代窯を作成した古代窯作教室、縄文土器を作る土器作り教室、古代の住居址を発掘する発掘教室がある。小学校のクラブ活動では、「古代体験クラブ」が発足し、四季を通した縄文人の生活体験を中心に、復元住居で一夜を明かす夏期・冬期の体験キャンプも実施している。

これ等の体験学習の他に、当地の特徴である縄文時

さらしなの里歴史資料館学芸員 翠川 泰弘

代と姨捨伝説をテーマとする夜間講座や講演会を開催し、他方面から歴史へのアプローチができるような場を提供している。

【友の会】当施設の運営をバックアップするボランティア団体であり、約100名の会員がいる。パークの除草・池清掃等の施設管理や独自の講演会、教室、史跡探訪等の文化事業も実施している。そのなかでも、10月下旬に行われる「さらしなの里縄文まつり」は、会員を中心に催される当施設最大のイベントであり、約3000人の参加者がある。こうした会員を中心に地域に根をおろし、いつしか資料館スタッフの手を離れ、地域住民の手による施設運営の行われる日が待ち遠しい。

【利用案内】—さらしなの里歴史資料館—

所在地 〒389-08 埴科郡戸倉町大字羽尾247-1
TEL 0262-76-7511 FAX (同左)
休館日 毎月曜日・祝祭日の翌日 12/28~1/4
入館料 大人200円(150円)、小中学校100円(60円)、
()内は団体料金20名以上
各種体験コーナー料金 200円~500円
交通 J R信越本線戸倉駅・J R篠ノ井線姨捨駅より車で10分、長野自動車更埴インターより車で20分



期間 1994. 11. 3 ~ 12. 11

「野尻湖周辺の先土器文化」展 磨製石斧77点出土というビックニュースを中心として、中野調査事務所が実施した野尻湖周辺の7遺跡の速報展を県立歴史館企画展示室で行った。短期間ながら県外者も含めて4800人もの見学者があった。

2つの展示会好評のうちに開催

「赤い土器のクニ」展 長野県立歴史館の開館を記念して、当センターにより企画展示室を利用して実施された。100ヶ以上の赤い土器を含めて約280点余の遺物展示は大好評をえ、期間中30,000人の見学者があった。



期間 95. 2. 2 ~ 2. 19

県埋蔵文化財関係人事異動 (3. 31・4. 1付)

【県教委文化課】

転出：野口安美主査→税務課、百瀬新治指導主事→南安曇郡三郷小学校教諭、小平和夫同→伊那市伊那西小学校教諭、春日雅博同→諏訪二葉高校教諭

転入：滝沢重治主査←地方労働委員調整総務課、郷道哲章指導主事←下高井農業高校、小林俊一同、←原 明芳同←埋文センター

【県立歴史館】

転入：綿田弘実専門主事←埋文センター、白沢勝彦同←埋文センター

【埋文センター】

転出：神林幹生総務部長→精密工業試験場管理部長、岡田正彦長野所長→阿智高校教頭、青沼博之上田・佐久所長→塩尻市丘中学校教頭、羽生田博行総務部長補佐→北信地方事務所税務課課長補佐、越 清登上田事務所庶務課長→篠ノ井保健所総務課長補佐、玉井昌二佐久事務所庶務課長→上田保健所環境衛生課課長補佐、白鳥喜一郎調査研究員(佐久)→伊那市春富中教諭、征矢野安政同→南安曇郡堀金中教諭、依田謙一同→野

沢南高教諭、五十嵐敏秀同(上田)→小県郡丸子中教諭、西村政和同→塩尻市塩尻西小教諭、山崎光顕同(長野)→上水内郡信州新町小教諭、宮下裕治同→長野市寺尾小教諭、月原隆雨同→更埴市屋代小教諭、山中 健同→長野市篠ノ井西中教諭、吉江英夫同→東筑摩郡波田中教諭、出河裕典同→上田市東小教諭、淵井英知同→須坂高教諭、常長虎徹同(中野)→須坂市墨坂中教諭、寺島俊郎同→南安曇郡梓川中教諭

転入：西尾紀雄総務部長(長野)←飯山建設事務所次長、外谷功総務部長補佐(同)←長野保健所環境衛生課長補佐、山口栄一庶務課長(上田)←大町建設事務所用地課長補佐、柳沢佑三調査研究員(中野)←木曾郡賢川小

退職：樋口昇一参事

(上田・長野・中野三事務所間異動は省く)